



第 26 号
2001 年 06 月

ネパリ・バザーロ だより



ベルダレルネーヨ通信

ネパリ・バザーロは、ネパールを中心としたアジア諸国のハンディクラフト製品や食品の企画、開発を行い、継続的に輸入を続けることによって就業の場の拡大をめざすフェアトレード団体です。立場の弱い人々、女性、子どもの自立を支援し、貧困の課題改善に取組めたらというのが私たちの願いです。母体となるボランティア・グループ(NGO)であるベルダレルネーヨ(ネパールの女性の自立と子どもの育成支援の会)のトレード部門として1992年から活動しています。1998年2月からは、地球市民かながわプラザに直営店「ベルダ」をオープンして第三世界からの品々をご紹介します。

フェアトレード 活動紹介 ニュース・レター



ネパリ・バザーロは、IFATに所属して、国際的な協力を得ながら、フェアトレード運動を通じて社会貢献を目指しています。

IFATは、ILO(国際労働機関)の正式なオブザーバの認定を受けたフェアトレードの国際組織です。



特集

特別記事:ネパール民主化の国民的英雄「ガネッシュマン」P2、P3参照

- | | |
|---|---|
| フェアトレードの現場とその想いシリーズ その5 | |
| ① | 「女性のおかれた状況とハンディクラフトの大切さ」 ¥¥¥¥ p.2
生産者を訪ねてシリーズ その11 |
| ② | 「WEANコープ」元気印の女性たち集まれ! 土屋春代 p.6 |
| マヌシ:パドマサナさんを囲んで(3月11日学習会記録) p.4 | |
| 巣立っていく子ども達(モーニング・スター・チルドレン・ホーム) 魚谷早苗 p.8 | |
| セミナー「教育とフェアトレード」ご案内 p.9 | |
| ヘナによる小規模農家の取組み p.10 | |
| 「レイコ企画」さんを訪ねて 北山詠美子 p.11 | |
| お知らせ・編集後記 p.12 | |

表紙絵:「ネパールの村風景」ラジュ・ムニ・バジュラチャーリヤさん画

女性のおかれた状況と ハンディクラフトの大切さ

編集部

(学習会記録 3月11日:P4 参照)

科学技術は日々進歩し、日米共同研究など新しい話題が新聞雑誌の誌面を賑わしています。機械自動化が進み、品質が一様に向上する一方で、私たちはハンディクラフト生産者と向き合いながら活動を進めています。

生産技術も違う、生産効率も違うこのようなハンディクラフトの取組みは、時代遅れにみえます。手工芸品に取組む価値は何か、なぜにそこまで情熱を注ぎ込む人々がいるのか。そこには、単なる物だけでなく、私たち大人が失いがちな大切なもの、子どもたちが私たちに求めている本質的なものがありそうです。

マヌシのパドさんがフェアトレードを始めた動機

3月の展示会兼公開セミナーで、女性の自立を目指す工房マヌシの代表パドマサナさんをお招きして、彼女の活動を紹介して頂きました(詳細は、P4、及び通信25号特集参照)。

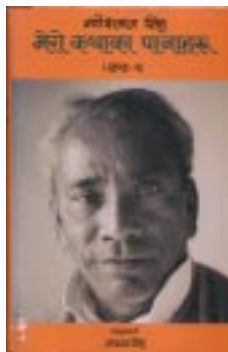
マヌシは、ネパールのフェアトレード・グループFTGNの中で一番小さい団体です。団体は小さくて、設備も十分ではありません。それでも、女性の地位向上に、そして伝統的草木染め復活にと活動してきました。

「何故そこまでがんばれるの？」

「そのエネルギーはどこから来るの？」

「大切に感じるのは何？」

色々なお話を聞くなかで知ったのは、彼女が中学、高校と育っていく中で、ご近所に住んでいた政治家、「ガネッシュマン」とその妻に可愛がられて、従来の習慣、伝統にとらわれないで、何が大切かをみる視点



ネパールの人々の心の中に息づく民主化の英雄、ガネッシュマン・シンが自ら彼の生涯について語った本。

The Pages of his storyという題名。老年のガネッシュマンが話す言葉を、彼を尊敬するデイリーニュース(ネパール)記者が毎週、その記事を紹介し、それを数年かけて集大成した。

新聞に連載されたガネッシュマン



ガネッシュマンの妹によって書き記された本。

を自然に学んでいったことです。

女の子も一人の人間であるのに、家庭においても、社会においても男の子と差があるのはどうか、という疑問を彼女がもったのは当り前のことでしょう。

ガネッシュマンの妻マンガラは、ネパールで初めて女性のための活動を組織した創始者として知られる人で、彼女に与えた影響も大きかったようです。

パドマサナさんは、政治家にはならず、社会貢献を目指すソーシャル・ワークの道に入りましたが、その心はガネッシュマンご夫妻の志と同じ。状況がわかって納得がいく思いでした。

ネパールの民主化の英雄、ガネッシュマン・シン

現在のネパールが様々な問題を抱えている、といっても、1990年の民主化による自由を民衆の手中に収めた歴史ほど功績の大きなものはないでしょう。その民主化の中心人物と言え、対外的には、B・P・コイ

マヌシの活動紹介

マヌシ(MANUSHI Art&Crafts)はFTGNのメンバーで、1991年に女性の地位向上を支援するために設立されました。

以前、女性問題を調査するNGOのメンバーとして様々な調査をしていたパドマサナさんは、女性たちが抱える問題の背景には必ず経済問題があることに気が付き、女性たちが収入を得られるよう、技術訓練の機会を提供し、マーケットに繋げる支援をしています。またローンの貸し付けもして、彼女たちが自ら仕事を作る支援もしています。

マヌシは、女性が経済力をつけることがネパールの継続的な発展にかかせないと考えています。



パドマサナ・サキヤ
経済学専攻

ララが有名ですし、その自叙伝も英訳されています。そこに民主化獲得のために闘ったもう1人の英雄「ガネッシュマン・シン」がいました。彼に関する本は2冊出ていますが、全てネパール語のみ。そして、今でも新聞に彼についての記事が連載されています(詳細コラム参照)。

本屋さん、友人、様々な人に彼のことを聞くと、皆、興奮して話始めました。座って居た方は急に立ち上がり、そして演説を始めた人もいます。ガネッシュマンに変身したようです。どんな脅威にも立ち向かい、銃を恐れず、民衆のために闘ったからです。

その情熱は国王をも動かしたのです。民主化直前の国王との和平会談の際、彼は国王から首相になるように薦められました。ガネッシュマンは言いました。「私には相応しくない。私の友人、クリシュナ・ブラサド・バッタライを推薦します」。この友人にそのポストを譲った話は有名です。もし、彼がその時に首相に就任していれば、彼の名は世界中に知られ、英訳本も沢山出版されただろうと言われています。今でも、彼と彼の妻の意思を汲み、「ガネッシュマン基金」が設立され、様々な活動を続けています。今でも人々の心の中に生き、人々の心の支えと誇りになっています。

ハンディクラフトの重要性

フェアトレードの活動の中にも、このように民主化への情熱が脈打ち、豊かな社会作りへの精神的支えになっています。

私たちの間でも、何故ハンディクラフトを手がけるのか、ということは議論になるところです。消耗品ではないので、一度購入していただいた商品は購入してもらえない(リピーターがつかない)ので、常に新しい商品開発を余儀なくされます。私たちの場合、相手がネパール(一部、インドのカシミール地方)に限定されていて、生産者も小さいので、こちらで常にリードしながら商品を開発しなければなりません。デザインも相手の技術に合わせながら行う必要があります。どうしても現地での打合せ、サンプル作りが欠かせず、滞在も長くなります。おそらく、この作業を代わって



鏡を造る女性たち
(J A C にて)

できる団体も、人も、他にはいないだろうと考えています。海外に時間と労力を割き、同時に、日本国内でもマネジメントするのは大変だからです。

それでも、ハンディクラフトは、設備がそれほどなくても始められる特長があり、小さな生産者に焦点をあてている私たちとしては重要な存在なのです。

ハンディクラフトは比較的簡単に始められて、しかし奥が深い職人芸の分野でもあります。そこに至るまでは長い道程。温もりのある商品作りは、どちらにしても大変手がかかります。そこには、アイデア捻出から生産、品質管理、出荷と様々な努力も含まれています。どうか、その汗と努力の結晶を楽しんで頂けたらと思わずにはいられません。

ハンディクラフト生産者から感じること

ハンディクラフトの生産者の様子は、「生産者を訪ねて」で、順次紹介しています。でも、実際の現場に足を踏み入ると、彼ら、彼女たちの製品と現実の市場ニーズのギャップに苦しむことが多いのです。それでも、仕事を必要とし、それが暮らしに直結していることがみえてしまうだけに、私達の力量のなさを感じてしまいます。市場ニーズと生産者の技量のギャップと常にたたかい、精神的葛藤が私達を襲ってくるのはこのような時でしょうか。

都市部に住む生産者と、地方に住む生産者でもその状況はかなり違います。共通していること、それは、人間として生きたいという願いです。

ネパール民主化の国民的英雄、ガネッシュマン・シン

1915年生まれ。ガネッシュマンは、当時の権力者ラナ家に入りを許されていた最も高い家柄に生まれました。小さい頃から旅行をしたり、ゲームをしたり、同年代の子ども達と戦うのが好きな少年でした。ある時、学校でラナ家の子に文句を言っただけで先生に体罰を受け、以来、学校へは行きませんでした。祖母が面倒をみてあげたといわれます。政治にも関心のある子どもでした。やがて、大学へいくようになり、学生のリーダーにもなりました。61年前のことです。当時は、公立学校も、図書館も社会的行事は一切禁止されていた時代。その頃から、ネパールの人々のために役立つことをしたいと思い始めたのです。そして、後のコイララと出会い、民主化に向けて活動を進めてきました。その困難な状況は、様々な人々に語り継がれています。



ガネッシュマンの息子、プラカシュマン・シン(中央:大臣も務めた) トリブバン大学ビスバサキャンパスのムクンドラ(右)と編集部:完二(左)。昔住んでいた住居前にて。

都市部の女性たちの就職事情

自分の意思に忠実に生きられる社会というのは、形は様々ですが、なんらかの形で経済的に自立していることが大切といわれています。

仕事をするのは、どこでも大変です。教育も十分に受けられて、成績も良く、人格もいい。こんな女性だったらどうでしょう。ネパールには「カースト」という身分階級が生きているので、都市部で暮らすにはあまりその階級が障害にならないと思われる中流層の方にお話を聞いてみました。

完二(編集部) 就職には、学校の成績が重視されるといいですか？

ジャリーナ 一般的にはそうです。私は、高校では優秀な成績で、その終了認定試験(SLC)ではトップ集団(ファースト・デヴィジョン：各科目を全て80%以上取れた場合に該当)で、大学で会計学を学びました。大学時代に幸運にも産休に入った女性の代理として1年間、国際NGOでアルバイトをしたことがあります。

完二(編集部) 就職も結構容易なのではありませんか？

ジャリーナ 就職の機会が少ないネパールでは、一般公募が新聞などで掲載されたとしても、それは新聞広告費の応援であることの方が多く、その多くは親戚その他の紹介で埋まってしまう。私達のような上の階層でない庶民の場合、思うような仕事をみつけるのは大変難しいです。仮に一般公募でみつけれられる場合、実際の経験が重視されます。私達のようなビギナーはどのように経験を積めというのでしょうか。

完二(編集部) 卒業した多くの女性たちは、その後どうするのですか？

ジャリーナ 半分は結婚したいと思っていて、そうします。半分は仕事したいと願っていますが、結婚しか道がないですね。

完二(編集部) どうして、仕事をしたいのですか？

ジャリーナ 家族を支え、自分を支えるには経済的事情を無視できません。私は、自分の意思に従って生きていきたいからです。

ネパールの首都カトマンズでは、このように女性たちの意識は高いようです。暮らし方も大家族から親子中心の核家族へと変化しています。それでも、親や親戚が娘に早めの結婚を勧めるという話はよく聞きます。仕事の機会が少く、選択の余地がないのです。

皆様からご支援頂いているビシュヌホーム(モーニングスター・チルドレンズ・ホーム)から独立して住んでいるアルジュン君にも、夕飯を食べながら、長々と同様のことを聞いてみました。彼も全く同じことを言うので、何か考えさせられました。

地方に行くと、そこで働く生産者の学歴は高くありませんし、生活も厳しい人を多くみます。ある片親の家庭では、娘が高校生なのに、家の壁は崩れ落ちたま

まだったり。着替えにも困ってしまうでしょう。都市部でも大変なら、農山村部では更に厳しい生活です。ハンディクラフト生産者の多くは、このように小さく、弱い立場で生活しています。



西ネパールのタルーの女性グループ
ハンディクラフトの製作は、グループで取組み、相互に助け合う。

学習会(3月11日)記録の抜粋紹介

マヌシ：パドマサナさんを囲んで<活動紹介>

皆さんがこうして活動をしていることを嬉しく思います。

ネパールの問題についてネパールの人以上に勉強をしている。私たちの国の人たちもよく働いていますが、働くチャンスもなく、自分で学ぶチャンスも少ないのです。

ネパールはヒマラヤを有し、恵まれた自然環境ですが、世界でも有数の貧しい国です。45%が貧困層。女性は、貧しい中でも更に貧しい。農業は重要な産業ですが、収穫できない季節もあり、収入はとても少ない。状況改善のために様々な活動を起こし努力して来ましたが、これまでも、そして今も途上国です。

マヌシは1991年に設立しました。目的は貧しい人たちの状況の改善。その主目的は女性の力を向上させ、男性とのバランスを取ること。悪い慣習がありますが、女性の立場を変えていかないといけない。ですから、女性のための開発プログラムを考えて、色々な場所で実行しています。タライの村でのプログラムもあれば、山岳地帯でのプログラムもあります。カトマンズでも開発の遅れた地域があり、プログラムを組んでいます。私たちのオフィスは、カトマンズにあります。

中西部の丘陵地サモンドラタルでアローの織物工場をやっています。交通手段も電気もない。24時間歩いていく。そこに住むタマン族は教育を受けていないし、農業収入だけでは不十分です。他の手段もない。大方の人は森林に入りアローを刈り、自分達の衣服などに仕上げて使っていました。しかし今は、私たちが買取って製品作りに活用しています。2年前にトレーニングをしました。アローを織るための機械も提供しました。でも、たくさん問題もあります。この村では、売春のためにたくさんの女性が売られているのです。タマンの女性は美しく、男達が好むからです。少女達はボンベイに売られてしまう。父親、母親、義父、夫さえも、娘

や妻を売ってしまう。仲介者は賢くて、ボンベイに行けば金が手に入ると甘い言葉を父母に吹き込みます。そして、女性の年齢や容姿により、9,000 ~ 30,000 円が払われるのです。

私たちの工場にもボンベイから帰ってきた女性が働いています。彼女達は幸運にも売春させられる前に戻ってこられました。彼女達はAIDSの知識も不十分。彼女らには、AIDSや性病は関係ない、お金が大事という反応があります。サモンドラータルに2人の少女がボンベイから戻ってきた時、多くの男性が彼女達と結婚したがった。なぜなら、たくさんのお金や物を持っているから。私たちは、戻った女性たちにAIDSの人もいと男性達にも伝えるが、金にしか関心がなく、耳を貸さない。

マワコットの刑務所に昨年24人の囚人がいた。そのうち20名が女性で、その半分は売春に関わった女性たちや国を越えようとした女性。彼女達に聞き取りをした話では、仲介者と買い手にはコンタクトを取るための目印があります。男性がこの地域で女性に偽装の結婚を申し込む。インド国境はネパール人は自由に出入りできる。紳士だった男性は国境を越えるとすぐ妻を売ってしまう。

そうした地域にマヌシのようなNGOが入り、仕事をすることで人身売買を無くすよう活動しているのです。

タライの開発の遅れたある地域では、わらの籠を作っています。そこでトレーニングのグループを作り、指導をし、籠作りだけでなく、識字教育もしています。彼女達はそれをお金に変える手段を知らないで売るのはマヌシが担う。マヌシのカトマンズオフィスで働く女性も、そうした恵まれない女性たちもいます。学校に通えなかった彼女達が教育を受け、手工芸品を作っているのです。

それと共に、小さな起業家を育てるプログラムも行なっています。女性が起業して力をつけないと開発の主流に入れません。私たちはお金を得る意味を教えています。持続的にお金を得られることは女性の開発にとって意味深いからです。ネパールでは女性の地位が低い。男性によって支配されている。女性は常に男性に依存している。重労働をしているが無視されている。文化や社会の伝統から、女性は物静かで受身が良いとされてきました。宗教でもヒンズー教は保守的で、仏教はやや自由。聖典には「太鼓は叩くと音が出る。女は叩くと働く」と書いてあります。ヒンズーも仏教も両方を私たちは信じていますが、仏教徒の女性のほうが力を持っています。未亡人はヒンズー教では宗教的に無力。仏教では宗教に関わることができます。女性たちは宗教と伝統文化に規制されているのです。

経済的にも女性の地位は低いですね。発言権がない。都市部ではだいぶ改善されていますが、地方では権限がない。職場でも賃金が低い。公的機関での給料は同等ですが、民間では給与差別があります。読み書きができる女性は25%。そのために公的機関や民間で女性が働くことは難しい。同じ時間働いて賃金が差別されるのは、カトマンズでも地方でも同じ。女性たちはアイデアがあっても、社会でも家でもそれを提案できません。



展示会セミナーの翌日開かれた学習会で話すパドマサナさん(右から2人目)、司会の高橋(左)、通訳をする西岡さん(左から2番目)、説明補佐する代表の土屋(右)

政治的には政党の立候補の5%は女性でないといけないという法律がありますが、選挙になると守られず2~3%のみ。女性開発省の大臣は女性で、政府でも女性のためのプログラムが作られている。しかし問題はたくさんあります。女性たちは能力があって起業したくても資金がないからです。

マヌシは5年前からマイクロクレジットを始めました。起業したい人に資金援助しています。このプログラムで女性の収入は少しずつアップしています。彼女達自身で決定することができるようになってきています。国全体を一度で試みることはできませんが、少しの融資を少しずつ地域に広げて来ました。現在は200~300名の女性に融資しています。

まだまだやりたいことがあります。もっとレベルアップを図りたい。法律ではカーストによって、性別によっての差別は禁止していますが、実際、差別があるからです。未婚の女性は35歳を過ぎないと親の財産を受け継げない。習慣、法律は男性によって作られたものなので、差別があるのです。

フェアトレードの組織であるFTGNの目的は、ハンディクラフトの販売を通して収入の低い虐げられた立場の人を引き上げること。FTGNの代表は殆どが女性。フェアトレード業界では、女性たちは公平に扱われています。

家で働くこともあるし、オフィスで働くこともある。そうした女性たちに資材やお金を貸して手助けをしています。利益は女性たちに還元する。これがフェアトレードと一般のビジネスとの違いでもあります。児童労働も認めない。毒性のあるものも使わない。文化を尊重する。お金の流れに対しても透明性を持っています。

一般の企業は、健康や環境を考えない傾向がありますが、フェアトレードは配慮しようとしています。マヌシはそのために草木染めをやっているのです。草木染めと化学染料の差は、人体への影響からも明らかでしょう。19世紀までは、世界中何処でも草木染めでした。そのあと化学染料が出てきたのです。化学染料には有害なものがあります。

フェアトレードは、また、子どもの権利や環境への配慮を常にしています。

---> 続く P 7 右上

WEAN コープ

(女性起業家協会コープ)

元気印の女性たち集まれ!

土屋 春代

設立の経緯

協同組合には私たちが日常の買物をするための消費者協同組合、災害などに備えての保険協同組合など形態は様々あるが、WEAN コープ (A WOMEN PRODUCER'S MARKETING CO-OPERATIVE) は起業した女性達の販路を拡大するために組織された販売協同組合である。UNDP (国連開発計画) の支援により、1991年に設立され、4年目から支援はなくなり自立した組織として女性たち自身で運営している。

理事が11名、専従スタッフは、事務局長、マネージャー、会計、営業、運転手、雑役の6人である。

WEAN コープは、WEAN が UNDP の支援を受けて創った。

そのWEAN は、ネパールで事業を成功させた7人の女性たちにより、女性の地位向上のために活動しようとして1987年設立されたNGOである。

現在、その代表を務めるのは、私たちの長年の友人であるネパールウーマンクラフト代表のシャンティ・チャダさん。

特に女性が仕事に就く機会の少ないネパール、しかも家事・育児・地域の祭事での働き手としての役割から家を空けて外で長時間の勤務ができないなどの女性を取り巻く環境から、自宅を中心に両立できるような仕事づくりをすることが女性の経済力を高め、女性の発言力、地位向上に繋がるとして、起業家を育成することを目的にWEAN ではビジネススクールを始めた。

これまでに受講した150名の内、約半数の女性が実際に起業し活躍している。

事業の内容は、漬物づくり、ジャムづくり、菓子づくりなどの食品関係から伝統を生かしたハンディクラフトまで様々だ。



ネパール極西部、ネパールガンジーのタルーの人々を対象に行われたWEANによるカットトレーニング



熱心に生産者のことを語るカラワティさん

売上の中からWEAN コープの活動費として10%を入れ、後に続く女性たちを育てる資金としている。

カラワティさん

WEAN コープの専従スタッフとして設立以来支えてきたカラワティさん。以前は教師をしていたが、家と学校だけが日常の世界に、漠然とした不満を感じていた時、WEAN コープという女性のための女性の組織設立を知り、スタッフに応募した。

UNDP の支援がなくなり、一時給与が出ない時もあったが、この仕事にやりがいを感じていたカラワティさんは自分たちの給料を稼ぎ出すためにも必死に頑張り、継続してきた。今ではマネージャーとして、品質管理やマーケット管理、配達指示、スクールを卒業して起業した生産者に、更にスキルアップのための講座準備など多忙だ。細やかによく気のつくカラワティさんはそれをテキパキとこなしている。

男性に支配され、自らの意思で動くことができなかった女性たちが、仕事を継続して力を付け、着実に地位を向上させているのが感じられてうれしいと言う。

「自分たちの母親世代からみたら、私たちはずいぶん自己主張もできるようになったのよ。娘世代になったら、もっと選択肢も広がるでしょう。長い期間、抑圧されてきたものを、そんなに急には変えられない。ゆっくり時間を掛けて変えていく必要があるのよね」と語る。

WEAN コープの課題

WEAN コープの売上は、国内市場を獲得している食品関係が9割、ハンディクラフトが1割だ。利益率の高いハンディクラフトの割合を増やすことが課題だと言う。

ハンディクラフトのマーケットは、やはりまだまだ国内市場より海外市場に頼らざるをえず、ドイツやアメリカにも以前輸出したことがあるが、その後注文が



WEAN コープのお店

WEAN コープでマサラを詰めるマンマヤさん
(大きな愛という意味の名前です！)

コットンクラフト：バスマット製作

続かず、継続しているのは日本だけだと言う。

28日、ハンディクラフト事業をしている理事が集まり、課題をどう克服するかを検討する会議が開かれた。丁度入り口に続く部屋で、カラワティさんと打合せをしていた私に、集まって来た理事達が次々と近付き挨拶をしてくれる。不思議バッグを作ってくれるサラダさん、ヘンプサンダルを作ってくれるモニカさん、フェルト製品のソッパさん。しばらく私たちは他愛のないおしゃべりに花を咲かせた。やがて時間になり彼女らは颯爽と会議室に向った。皆、パワフルで行動力のある人たちばかりだ。

会う度に彼女たちに刺激を受ける、「ボヤボヤしてはいられないゾ」と。

---> P 5 右下より続く：

ネパールにはたくさんの草木染めがありましたし、材料もあります。山の人は草木染めをしていたのです。タンカ(仏画)も天然染料でした。人々は楽な仕事を好みます。草木染めは化学染料よりも難しい。しかし、良さを見直してリバイバルしようと努力しています。草木染めには根・花・茎などいろいろな材料を使い香りもよい。色もマイルドで平和的。ミロバランは体に良い。大学では粉末染料を研究しているが難しい。採取された場所で色が異なるのも難しさの一因。植物の成長条件でも色が違う。村の女性たちは草木染めに関心が強い。そこから改善をしていきたいと思っています。マヌシは最高の草木染めを目指します。色落ちを防ぐ実験もしています。いっしょに働き、**アジアの一員として共に発展していけるでしょう。**ナイロビでの国際会議で**アジアの視点を盛り込んで提案したい。**欧米の考え方が主流の中に、**アジアの感性、考え方を盛り込んでいきたいのです。**

女性保護施設を訪問して

DV(ドメスティック・バイオレンス：家庭内暴力)は世界中にありますが、**男性の暴力は特にアジアに多い。****アジアの女性は人前で話す権限が少ないせいもあるのでしょう。****経済的に自立していないこともありますね。**女性たちに経済力がないので、夫の稼ぎで生活し依存しているからです。発言力がなく、言うことを聞かないといけない。ネパールは大家族。DVは夫だけでなく、親戚からもあります。舅姑にも叩かれる。いなかでは特に多い。都会には別の問題もあります。都会の女性は仕事をしていることが多いが、家事もしなければいけない。

ネパールにはこうした保護施設がない。日本では、女性たちが保護され、仕事に就けるよう支援されているのは素晴らしい。逃れてきた女性が仕事を自分で見つけるのは難しいでしょう。カウンセリングして、相應しいトレーニングをする役割も素晴らしいと思いました。

(注：日本滞在中に訪問して頂いた感想です：編集部)



マヌシの事務所で草木絞り染めの品質を話し合うパドマサナさん

巣立っていく子ども達

モーニング・スター・チルドレンズ・ホームは、カトマンズの郊外にある子ども達のための小さな家です。ビシュヌさんとムナさんというネパール人ご夫妻が、身寄りのない子、貧しさで家族とは生活できない子ども達を引き取り、家族同様に育てています。教会関連からの支援金以外収入のないホームでは、子ども達の教科書をそろえることも難しく、子ども達の安定した生活と、教育の充実を願って、私たちのグループから支援をすることになりました。知り合ってから、今年でちょうど10年になります。初めは18人だった子どもの数が、今は40人を越えました。

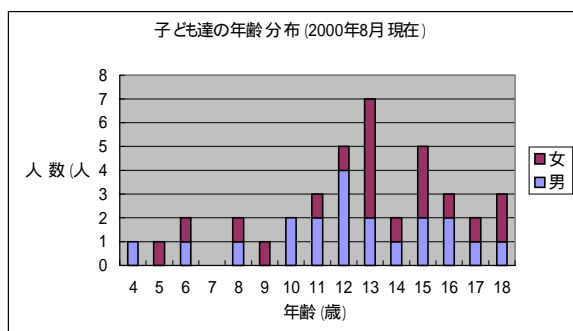
就職の難しさ

支援を始めた頃は、幼い子ども達の衣食住が満たされ、元気に学校に通い、子ども達同士で助け合う様子を見るだけで、私たちも安心していました。けれど、やがて心配になってきたのが、卒業後の子ども達の進路です。失業率の高いネパールで、身寄りのない子ども達には身内のツテやコネで就職することはできません。将来に夢を抱く子ども達にとって就職は自立への重要な一歩です。子ども達が仕事を見つけるには教育が重要と考え、私たちも特に教育を充実させるお手伝いを意識してきました。

成人した子ども達

ホームができた時から暮らしてきた最年長の子ども達3人の様子を見てみましょう。リタちゃん、アルジュン君、プレム君の3人は、今年でもう23歳になります。

リタちゃんは、18歳の時に結婚してホームを出ました。10年生を修了しないうちに結婚したいと言い出したリタちゃんに私たちは驚きました。ビシュヌさんもせめて卒業するまでは、と引きとめたのですが、意志の揺らがないリタちゃんについては折れて、教会を通じて知り合った青年との結婚式を精一杯盛大に祝ってあげていました。身寄りのなかったリタちゃんは、結婚することで「自分の家庭」を持ち、女の子も生まれ、時々実家であるホームに顔を出したりしながら、幸せそうに暮らしています。



台所で夕食の準備をする子どもたち。

大きくなったアルジュン君

アルジュン君はホームの子どもたちの中で一番初めに10年生を修了し、SLC (全国共通の高校卒業検定試験のようなもの) を一度で合格し、私たちを大いに喜ばしてくれた(いまや)青年です。カレッジでさらに経済を学ぶことにした彼のために、学費の支援もしてきました。ホームで覚えて取得した運転免許と、カレッジで身に付けたコンピューターの知識も功を奏してか、出版関係のN G O に就職することができました。いい職場に恵まれ、コンピューター技術にさらに磨きをかけるため、学校に通わせてもくれました。

仕事を得たアルジュン君はホームを出て、アパート住まいを始めたのです。台所もない小さな部屋に同居人となったのは、ホームで一緒に育ち、その年にちょうど10年生を修了したプレム君でした(ホームに来てから学校に行き始める子が多いので、学年と年齢はまちまちです)。すでに20歳になっていたプレム君は、近くに住むお兄さんの援助でカレッジに通い始めましたが、アルバイトがなかなか見つからず経済的には苦労していました。

しばらくして、二人は台所もある少し広い部屋に移りましたが、同じ頃にアルジュン君の妹のレベッカちゃんが10年生を修了し、ホームを出て一緒に暮らし始めました。3人で住むには狭すぎる部屋でしたが、プレム君とレベッカちゃんの生活を支えるアルジュン君の給料ではその部屋が精一杯でした。レベッカちゃんは、昨年受けたSLCが残念ながら不合格で、今年の再試験に向けて勉強をし直しています。アルジュン君が学費を工面して、将来のためにパソコンを勉強させたりもしました。近くの学校で、ボランティアとして子ども達に教えたりもしています。

昨年は、プレム君も無事にN G O 関連の仕事を見つけることができました。ようやく自分で収入を得ることができるようになったことで、張り切って暮らしているようです。最近では、もう少し広い部屋に引っ越すこともできました。

就職して以来、アルジュン君はEメールを使って日

本にいる私たちと頻りに連絡をとっています。おかげで、アルジュン君たちの状況や想いを以前よりも知ることができるようになりました。現在、彼らへの継続的な経済支援などは何もしていない私たちですが、自分達の力で頑張っている若い彼らが、10年間応援してきた私たちのことを精神的にとてもしるにしてくれているのが感じられて、嬉しい限りです。

その他の子ども達

ビシュヌさんは、10年生を修了した子はホームを出るように促しています。いなかの家族や親戚の元に戻る子もいますが、ホームで教育を受けることができたおかげか、ホテルのフロントの仕事、映画館の仕事など、それぞれに仕事を見つけて暮らしているようです。ネパールの失業率の高さを思うと驚くほどですが、それは、ホームの暮らしが安定していて、子ども達が安心して勉強に向い、しっかりと育ったということだと思います。

これから成人する子ども達

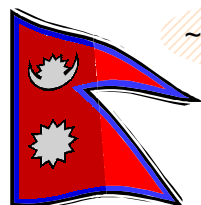
ホームには現在40名を超える子ども達が暮らしています。子ども達の人数が増えたこと、年長の子の割合が増えて一人あたりの出費が増えたことで、生活費も多くかかるようになり、私たちの支援金もささやかで

すが増額することになりました。特にこの半年間に新しい子が増えました。売春させられていた女性の子ども、目の前で両親を殺されてしまった子など、非常に厳しい状況からホームに引き取られてきた子もいます。数ヵ月後にそうした子に再会すると、来たばかりの頃に比べて格段に表情が穏やかになっていることで、ホームの環境のよさが伺えます。

日本で多くの人に支えられて続けてきた応援が、子ども達の健やかな成長となって現れていることを嬉しく思います。今後成長する子ども達がどの子も成績優秀というわけではありませんし、皆がすぐに仕事を見つけれはしないでしょうが、ホームで安定した生活を送り、しっかりと教育を受けられるよう、これからも見守っていききたいと思います。



結婚したりタちゃん(右から2人目)も夕食に招待されて来ていた。



～公開学習会～

教育とフェアトレード 絵本作りと地域貢献 「サパナさんを囲んで」

2001年10月14日(日)
13:30～16:00
あ～すぷらざ 会議室

スピーカー：サパナ・シャルマ

(教育を専門としながら、絵本作り、フェアトレードへの繋がりを模索)

世話役：土屋春代(ネパリ・バザーロ代表)

内容：

パート 新貿易ゲーム

・・・国際理解教育として、ゲームで世界の北と南の現状を体感

パート サパナの課題報告

・・・ネパールの人々が日々の暮らしで抱えている貧困を、教育の立場から研究した状況報告と、その改善への模索

意見交換(サパナ・土屋春代)・・・教育とフェアトレードという立場からネパールの

の問題を改善するために活動をしている二人に、それぞれの方法や効果を聞き、よりよい支援のあり方を会場の参加者と共に考えます。

懇親会

・・・更に話を深めたい方へ：お茶とお菓子で自由にご歓談ください。

【サパナ プロフィール】

1959年生まれ、独身。小学校ではボランティアで教えた経験を持ち、子どもが大好き。高校、語学学校で英語を教え、セーブ・ザ・チルドレン、ピースコック(アメリカの青年海外協力隊)その他、図書館員としてネパール、アメリカ、日本の団体に協力して、仕事として、ボランティアとして携わる。

今までに出版した本は3冊。修士論文の研究で滞在した地域での生活の厳しさに対するカルチャーショックが、今日の彼女の原動力。教育だけでは改善できない課題を、私達ネパリ・バザーロと出会い、フェアトレードを通じて何かできるのではないかと考えている。絵本作りをしながら、地域の実情を知ることから始めている。



ヘナによる小規模農家の生活向上に向けた取組み

ネバリ・バザールでは、常に新しい商品作りに取組んでいます。その一つに、数年前から取組んでいる西ネパールを中心としたコーヒー栽培の促進活動があります。

今回は、染料に使われるヘナ、そしてアムラでの活動を紹介します。通信 23 号で紹介した西ネパールの取組みや極西ネパールで取組んでいる活動です。

僻地の活動は、私達だけの力では手がかりすぎるので、誰と手を組めるかが大変重要なポイントになります。

ネパールのヘナは、生活が厳しい西側の、大変暑い平野部に育ち、お祝いごと、お嫁に行くときなど、ごく限られた儀式の際に髪を美しくするために使われています。

私達はこのヘナが現金収入に結びつき、生活の向上に役立つように現在活動中です。また、製品化できる段階にはなく、現在皆様にお届けしているヘナは、インドのラジャスタン地方で採れた高品質のものを選んでいきます。

アムラは、生活の厳しいネパールでも、特に困窮していると言われる極西ネパールのジャングルで採れる実を集めて製品化したものです。収入手段のほとんどないこの地域の家庭が、現金収入を得ることで生活が向上し、家庭における女性の地位が向上することを期待しています。この取り組みは、ここで長年活動してきたネパール・ウーマン・クラフト(NWC)、女性起業家協会(W E A N)、この地域で14年間、民生委員として女性問題の解決に取り組んできた女性、ラジェスワリさん、そしてネバリ・バザールのネットワークにより実現しました。

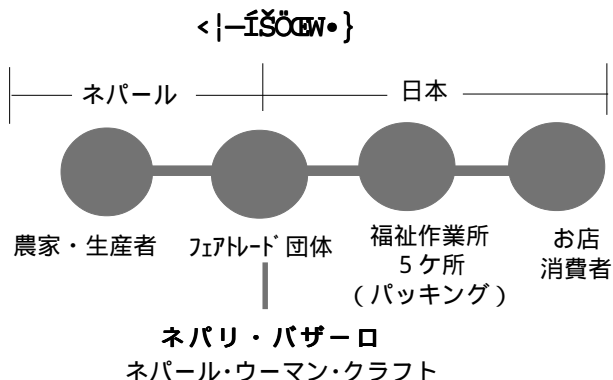
地域の人々にどこまで貢献できるかは、まだ始まったばかり。やらなければならないことは沢山ありますが、欧米にたよるだけでなく、私達アジアの仲間としても、このように初期の段階から取組んでいかなくては、と思っています。機会をみて、また状況をご紹介します。



極西ネパール、ダンガリ市内の生活風景。車はほとんどなく、力車と自転車が重要な交通手段。重い荷物は牛車が活躍する。カトマンズから飛行機で1時間でネパールガンジー。そこから車で1日走る。アムラの地は、ここからまだまだ遠く、北側の森の中。



中高年(エレガント・エイジ)に人気の高い「ヘナ」「アムラ&ヘナ」。これを使うことは私達にとって嬉しいことです。また、生産者にとってもメリットが大きいのです。



西ネパール、ナリット村の小学校裏庭にて。生徒達の後ろにヘナの木が見える。先生でローカルNGOクリシュナさん(右端) ネバリ・バザール代表の土屋春代(右下)



極西ネパール、ブディトラ村にて。左から2番目がNWCのシャンティさん、右から4人目奥がラジェスワリさん。

レイコ企画さんを訪ねて

— ネパール・マサラを使ったカレー作りを通してお手伝い —
北山 詠美子

4月14日土曜日、よく晴れた日に、西多摩郡日の出町にあるレイコ企画さんにて行われた「ネパールの手仕事展」に、ネパール・マサラを使ったカレー作りのお手伝いに行きました。

ネパリー・バザール事務所のある本郷台駅から武蔵増戸駅までの道のりは初めて聞く駅ばかりで、何度も何度も乗り換えの順番を周りのスタッフに教えてもらっていました。それでも当日は、乗り換えるごとに緑がふえ、鳥のさえずりが聞こえてきたりして、到着する頃には、私の出身である徳島の田舎に帰ったように気持ちが和んでいました。手織の服にエプロンを着けて駅まで出迎えて下さった田中麗子さんの車に乗って、途中で、今日のカレー作りに使うお野菜の不足分を調達しました。そこで、私へのおみやげにと、ふっくらした「しいたけ」と「トマト」、「きゅうり」を頂いてしまいました！取れたて新鮮で美味しかったです！ありがとうございました。そして、ギャラリーであるご自宅へ向かいました。

玄関にたって、いくつもの小さなグラスに生けられた小さな花が日差しに揺れるのが目に入りました。麗子さんのやわらかな気持ちがこぼれていて、ネパールの厳しい状況や女性の思いなどうまく伝えなくては、と力んでいた肩の力がふっと抜けて、素直に今日出来ることをお手伝いしよう、と思いました。

台所へ向かうと、娘さんがもうすでにタマネギやらにんじんの皮をむいて、てんこ盛りにしていただきました。あんなにたくさんのお野菜を1人でむいたことは初めてだったそうで、麗子さんはじんわり喜んでいました。庭には、お釜があったり、テーブルが並んでいたり、あとはカレーを作るのみです。ご飯はご近所に住むお友達が自慢の釜で炊いています。思っていたより早く炊けてしまって、カレー班、ますますあせってしまいました。

そのうちに、ちらほらお客様もいらして大忙しです。カレーの匂いが通りに流れて、お庭をのぞきにくる方や、チラシを見て来て下さる方、いつもお手伝いがいらして下さるお友達でお部屋もいつしかいっぱいです。ようやく出来上がったカレーをふっくらご飯にかけて、いらした方みなさんに召し上がって頂きました。事務所から発送するときも少ないかも...と思っていたマサラが、やはり試食して下さったお客様で売り切れてしまい、追加発注です。お客さまがお互いに「近くてまた来れるから、他の方にどうぞ」と譲り合っている様子は、なんだか温かくて、身近な方に支えられている空気がまた人を惹き付けてゆくんだなあと感じました。

試食のすんだ方から、今度はお買い物です。試着してみんなに見てもらったりと、これがやっぱり醍醐味です



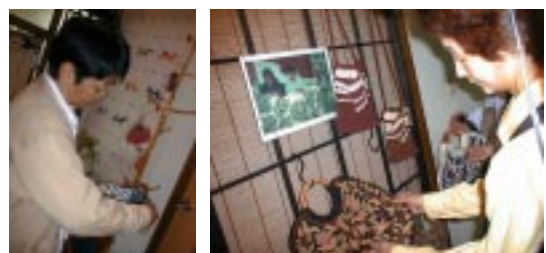
紅茶と紅茶クッキーで談話を楽しむお客さま

ね。ネパールの紅茶とその紅茶で作ったクッキーを食べながらのおしゃべりも盛り上がりしました。普段から、草木染めをなさっている方、ちぎり絵をなさっている方もいらして、このギャラリーだけにとどまらない輪が広がって行く様子はうれしいですね。ちなみに、この飲み物代は、レブチャの絵本プロジェクトに寄付して下さいました。

そして、この時間になってはじめて、大事なデジカメの存在に気づきましたが、にこやかに、カレーを食べる姿はもうどこにもなく、真剣に品定めをする姿、のんびりお茶を召し上がる姿を撮らせていただきました。ほかほか炊き立てご飯を思わず黙々と食べてる姿など、ぜひお伝えしたかったのですが、これは大事に私の胸にしまっておきますね。

麗子さんが後片づけをしながら作って下さったおにぎりをいただきながら、やっとゆっくりお話をすることができました。アルバムを見せてもらい、いろんな方との協力でいつも朗らかに微笑んでいる麗子さんがあちこちにいます。娘さんのそばにいてできる仕事ということでご自宅をギャラリーにして始めたそうですが、月一回、一週間の企画展を準備し、実行し、お客様とのやりとりを目の前で見ながら育つことは、どんなしつけよりも、伝わるものがあると感じました。1人でお野菜を全部むいてしまう集中力はきっと、お母さんの後ろ姿につられて出てくるんだと思います。

駅まで送って下さる車の中でも話は尽きず、車を降りたくないような気持ちでした。実際にオーナーさんを訪ねて、ネパールから届くハンディクラフトなどがお客様の手に渡って行く様子を見ることは、まだまだ修行中の私にはとても貴重な体験でした。助っ人の1人くらいにしかなれませんが、出来ることからお手伝いしたいと思います。ありがとうございました。



真剣に品選び

ベルダでは、国際協力やフェアトレードについて共に考えていくために、また、協力の対象となっている国々の文化的すばらしさをご紹介しますために、様々なイベントを行なっています。

セミナー「教育とフェアトレード」
10月14日(日) 13:30-16:00
場所: あ～すぶらざ <P9参照>

絵本作りと地域貢献
「サパナさんを囲んで」

今回の「料理教室」は
7月15日です。
場所: あ～すぶらざ
大好評のネパール料理教室です。

至大船 至横浜
本郷台駅
地球市民かながわ
プラザ2F
フェアトレードの
お店 ベルダ
あ～すぶらざ
(愛称)
TEL: 045-890-1447
FAX: 045-890-1448



ベルダは楽しいイベントが満載です!!

「フェアトレード学習会 / ミーティング等のご案内」

「ベルダ」では、楽しい勉強会を連続で行ない気軽に参加出来るものを予定しています。みなさまの参加をお待ちしています!

- 6月24-25日 みちのくを訪ねて
- 7月15日 料理教室
- 7月29日 青少年対象イベント(料理とサリー着付教室)
- 8月19日 鶴見イベント
- 8月20-26日 福島県うつくしま未来博
- 9月22-23日 全国ボランティアフェスティバル
- 10月6-7日 国際協力フェスティバル(日比谷公園)
- 10月14日 「教育とフェアトレード」(サパナさんと語ろう!)
- 10月28日 鎌倉ピクニック(天園ハイキングコース)



国際理解にお役立て下さい。通信販売カタログ

ネバリ・バザーロでは、ニュースレターの発行、フェアトレード関連の本の出版、市民の方々の国際交流、支援の理解を深める活動も行っています。また、フェアトレードの活動に広くご協力頂けるように、通信販売カタログを作成していますので、ご興味がある方はご請求下さい。また、確実に資料が欲しい方、内部勉強会の活動を知りたい方は、購読会員(切手相当の費用として、1,050円)の制度もあります。学校、教育機関へのフェアトレード商品の貸し出し、講演会、お話し会など、開発教育のご協力も実施しています。お問合せ下さい。



ボランティア募集!

イベントのボランティアをはじめ、地域研究と絵本を作る分科会、織と染めの分科会、インターネット分科会など、様々なボランティアを募集しています。お気軽にお問い合わせください。

ネバリ・バザーロのホームページ・・・
グループの設立からフェアトレードに関する情報紹介など分かり易く読めます。
ご覧になってご意見をメールでどうぞ!
<http://www.yk.rim.or.jp/~ngo/>

・f・O・V・E・L・



メンバー数人で近くのお店を訪問しました。
参加して良かったこと、
その1「皆さんの情熱を直に聞いたこと」
その2「訪問メンバー同士が共感し、情報を共有できて、今まで以上に仲間意識を持てたこと」やはり、現場は大事だと実感した1日でした。(昌治)



ネバリのマサラを使ったカレーを食べさせてくれるカフェに先日お邪魔しました。具によってマサラの配合を変えて全く違う味に仕上げ、それがどれもおいしくて感激。ネバリの商品が、次の人の手に渡ってさらにパワーアップ、魅力を増しているんですね。ああ、また食べたい。(早苗)



20年前から、私のベッドの脇にある祐保美恵子さんの写真集、「カトマンズの日々」。その巻頭に「いま、この大地と話しておかねば、いま、この大気と話しておかねば、いま、この人達と話しておかねば、・・・」との言葉が。まだ間にあいますよね。この夏私の初めての「カトマンズの日々」。(万知子)



日曜日朝。お店から外を見ると雨。ここ数年、何度となく見た光景だ。その間に何回ネパールに足を運んだことだろう。西はコーヒー、アムラから東は紅茶、アローまで。最近、「人間らしくなった」「年?いっても変わるんだね」といわれる。(前は鳥魚?)この活動を通じて、人を通じて、様々なことを学んでいます。(完二)

発行: ネバリ・バザーロ/ベルダレルネーヨ
247-0005 神奈川県横浜市栄区桂町274-15
第2中山ビル3階
Tel: 045(891)9939 Fax: 045(893)8254
<http://www.yk.rim.or.jp/~ngo/>
E-mail: nbazaro@a2.rimnet.ne.jp
印刷製本: 社会福祉法人光友会神奈川ワ・ショップ

2001年06月発行
発行責任者: 土屋完二
編集スタッフ: 太田昌治 魚谷早苗
土屋完二 矢島万知子
高橋純子
編集協力者: 他スタッフ一同